障がいのある人への支援の仕方について多角的・総合的に考え、誰も置き去りにしない社会をつくっていこうと努力することのできる生徒の育成

～「障がいのある人を支える人ってどんな人？考えよう、自分たちにできるこれからの支援」の実践を通して～

1　主題設定の理由

2　研究の構想

3　研究計画

4　単元構想図

5　研究の実践と考察

6　研究の成果

7　研究のまとめと今後の課題

研 究 の 概 要 報 告

一、全体の感想

自己の生き方を見つめ直し、社会的・職業的自立にむけた力を育む実践、地域とかかわり、地域への愛着を深める実践、SDGs や環境、国際理解、福祉など今日的な課題を扱った実践が報告された。これらの実践においては、総合学習を核として学校や地域の特色を生かした教育課程を編成したり、子どもたちの興味・関心・思考の流れとその変化をとらえ、創意工夫を生かした教育活動を展開したりする実践者の真摯な姿勢があらわれていた。

二、討論の内容

⑴ ゲストティーチャーを効果的に活用するための工夫

キャリア教育や福祉、地域学習など、自己の生き方を見つめ直し、社会的・職業的自立にむけた力を育む実践や地域とかかわり、地域への愛着を深める実践が報告された。これらの実践では、地域の企業や団体など、多くの外部人材をゲストティーチャーとして活用していることから、ゲストティーチャーを効果的に活用するための工夫について話し合われた。助言者からは、本当に必要に迫られる場面でゲストティーチャーを呼ぶこと、ゲストティーチャーに思いを語ってもらう場合には子どもの求めに応じて語ってもらうことを事前に打ち合せしておくこと、ゲストティーチャーを巻き込んだ協働的な学びを実現できるように課題を設定することが効果的であるとの助言を得た。

⑵ 子どもたちが課題を「自分事」としてとらえられるようにするための工夫

SDGs や環境、国際理解、福祉といったテーマに関して、子どもが課題の解決にとりくむ実践が報告された。討論では、子どもがこれらの課題を「自分事」としてとらえられるようにするための探究課題との出合わせ方について話し合われた。助言者からは、SDGs を学ぶことが目的とならないように、地域のひと・もの・こととのかかわりから課題を見出すこと、子どもたちが地域や自己の理想の姿を思い描き、その実現にむけて課題を設定することが重要であるとの助言を得た。

⑶ 総括討論

子どもたちの自律的な探究を実現する総合学習のあり方について、各実践をまとめながら討論を深めた。実践者からは、子どもに寄り添う教員の姿勢、長期的な視点で単元を見通すこと、子どもたちが自己決定する場面を設けることが重要であるとの意見が出された。また、総合学習を学級や学年だけで考えるのではなく、学校全体で考えること、総合学習の学び方を子どもたちに伝えることが重要であるとの意見も出された。助言者からは、地域や社会との直接かかわって問題や課題の解決にとりくむ学習が重要であること、子どもたちの振り返りやそれを見取り支援する教員の適切な評価が大切であるなどの助言を得た。

三、今後に残された課題

⑴ 総合学習を中核とするカリキュラム・マネジメントのあり方の検討

⑵ 総合学習を充実・発展させるための学校体制などの構築　　（加藤智・酒井智之）

報 告 書 の で き る ま で

全県で提出された１４本をもとに、研究成果がまとめられた。

助　　言　　者	加藤　　智（愛知淑徳大学）	酒井　智之（岡崎・竜海中）
教育課程研究委員	佐々木章仁（豊橋・五並中）	大島　俊介（海部・(津島)東小）
	井口　晴渚（名古屋・穂波小）	多湖　祐亮（名古屋・枇杷島小）
	近藤　　駿（名古屋・大森中）	近藤　洸希（瀬戸・水野小）
	溜　久美子（尾北・城東中）	江崎　　漠（豊田・小原中部小）
	大河内　航（碧南・中央中）	

報告書の要点

ＳＤＧｓの目標８「働きがいも経済成長も」の中には、「若い人たちや障がいがある人たち、男性も女性も、働きがいのある人間らしい仕事をできるようにする」ことが、目標の一つとして明記されている。しかし、日本の障がい者雇用率は目標までは届いておらず、実際に障がいのある人を雇用したり、一緒に働いたりしていく上では課題があるといえる。障がいのある人に対して身体的な援助をすることに加え、働く環境を整えたり、ともに働く仲間として認めたりしていくことが、これからの支援としてより大切になってくると思う。

本学級の生徒の多くは、障がいのある人に対して「たいへん」「かわいそう」「不自由」といったイメージをもっていた。また、障がいのある人たちの支援の仕方に関しても、身体的な支援の仕方以外を思いつく生徒はいなかった。

そこで、「障がいのある人への支援の仕方について多角的・総合的に考え、誰も置き去りにしない社会をつくっていこうと努力することのできる生徒」の育成をめざし、「障がいのある人を支える人たちの仕事の様子や仕事に対する思いを実際に見たり聞いたりする機会を複数回もち、学んだことをもとに自分たちにできる支援について考え、発表することで、さまざまな支援の仕方や支援するときに大切なことに気付き、誰も置き去りにしない社会にむけて自ら考え、動き出すことができるだろう。」という仮説をたてた。

実践を通して、生徒は障がいのある人の支援の仕方には、間接的な支援や障がいに応じた支援があることを気付き、支援の仕方に関して多角的に考えることができるようになった。また、障がいのある人に自分から連絡をとり、質問をしてわかったことを発表したり、募金を企画して障がいのある人のためにお金を集めたりと、実際に行動に移す生徒も現れた。実践を通して、障がいのある人への支援の仕方について考える授業は、「福祉」というテーマだけで扱いきることは難しく、「雇用」や「職業」とも大きくかかわる内容であると感じた。よって、障がいのある人を支える人を取り上げることは、１年生で学ぶ「福祉」だけでなく、２年生で学ぶ「職業」とも関連をもたせることが今後の課題であると思う。今回の実践と反省をもとに、今後も誰も置き去りにしない社会にむけて努力することのできる生徒を育てていきたい。

１　主題設定の理由

本学級の生徒の多くは、５年生、６年生の総合学習で「福祉」について学習している。単元導入時に、小学校で学んだ福祉を振り返った上で、障がいのある人に対してどのようなイメージをもっているかタブレット端末に打ち込んだ。そして、出現数の多い単語を表示してみたところ、「たいへん」「かわいそう」「不自由」といった単語が多かった。このことから、多くの生徒が、障がいのある人に対してあまりポジティブではないイメージをもっていることがわかった。また、６月に福祉体験教室を受けて、障がいのある人を助けたいという思いを多くの生徒がもつことができたが、身体的な支援の仕方以外を思いつく生徒はいなかった。これらのことから、障がいのある人に対して、一つの側面でしか見ることができていない生徒が多く、しかもポジティブな見方ができていない様子がうかがえた。これは、新型コロナウイルスの影響で小学校時での福祉施設への訪問活動や福祉教室がなくなり、障がいのある人と接する機会が減ってしまったことも少なからず影響しているだろう。

国連総会で採択されたＳＤＧｓの目標８「働きがいも経済成長も」の中には、「若い人たちや障がいがある人たち、男性も女性も、働きがいのある人間らしい仕事をできるようにする」こ

とが、目標の一つとして明記されている。日本でも、民間企業の法定雇用率は２０２１年３月に２．２％から２．３％に引き上げとなり、障がいのある人の雇用をすすめようという動きがある。しかし、２０２０年の障がい者雇用率は２．１５％で、目標までは届いておらず、実際に障がいのある人を雇用したり、一緒に働いたりしていく上ではまだ課題があるといえる。これらのことをふまえると、障がいのある人が抱える不自由さを理解し、身体的な援助をすることはもちろん大切であるが、働く環境を整えたり、ともに働く仲間として認めたりしていくことが、これからの支援としてより大切になってくると思う。

以上のことから、障がいのある人にもさまざまな人たちがいることと、その支え方にもいろいろな方法があることを学ぶことで、障がいのある人に対する支援のあり方は一つではないことを気づかせていきたい。そして、学んだことをもとに自分たちにできる支援を考え、誰も置き去りにしない社会をつくっていくために努力する生徒になってほしいという願いをこめ、本主題を設定した。

２　研究の構想

（１）めざす生徒像

障がいのある人への支援の仕方について多角的・総合的に考え、誰も置き去りにしない社会をつくっていこうと努力することのできる生徒

（２）研究の仮説とてだて

障がいのある人を支える人たちの仕事の様子や仕事に対する思いを実際に見たり聞いたりする機会を複数回もち、学んだことをもとに自分たちにできる支援について考え、発表することで、さまざまな支援の仕方や支援するときに大切なことに気付き、誰も置き去りにしない社会にむけて自ら考え、動き出すことができるだろう。

てだてⅠ　障がいのある人をさまざまな立場で支える人たちと出会い、支援のあり方についての話を聞く場の設定

市役所、ほっとぴあ、社会福祉協議会、企業の方をゲストティーチャーとして呼び、話を聞いたり質問したりすることで、直接的な支援だけでなく、間接的な支援や障がいに応じた支援など、支援のあり方について多角的に考えることができるだろう。その際、仕事内容だけでなく、働いている方たちの思いも語ってもらい、子どもたちがより興味をもてるようにする。また、障がいのある人を積極的に雇用している地元企業「Ｋ社」の職場の様子を動画で撮影し、実際に支えている様子を見ることで、支援の仕方について理解を深めることができるようにする。

てだてⅡ　学びを振り返り、学んだことをもとに、自分たちにできる支援について考え、発表する場の設定

ゲストティーチャーから聞いたことを学級内で振り返り、感じたことや調べたことを伝え合うことで、支援の仕方や支える側の思いについて多角的に考えることができるようにする。そして、学んだことをもとに、自分たちにできる支援について考え、仲間と話し合った内容をゲストティーチャーの前で発表する場を設ける。発表を聞いたゲストティーチャーからアドバイスをもらうことで、時間的な視点や自分たちの特性、自分たちにできるかどうかかなど、総合的に考えを深められるようにすることで、行動に移すことができるようにする。

３　研究計画

（１）研究対象　１年生３４人

（２）仮説の検証方法

Ａを抽出生徒とし、その変容を追うことで仮説の妥当性の検証を行う。Ａは真剣に授業に参加することができ、自分の考えをまとめる力がある。福祉体験教室では、さまざまな体験を通して福祉の大切さを理解し、障がいのある人に出会ったら少しでも助けをしたいという思いをワークシートにまとめることができた。障がいのある人に対するイメージを尋ねたアンケートでは、「不便なことが多くてたいへんそう」と答えており、ポジティブな印象はもてていない様子だった。一方で、身体的な支援以外は思いつかず、具体的にすぐにとりくむことができるような内容までは考えることができなかった。また、自分の考えをワークシートにまとめることはできているが、考えたことを授業で発表したり、積極的に仲間に伝えたりする様子はあまり見られない。本単元を通し、さまざまな障がいのある人たちがいることを理解し、その支援の仕方もさまざまであることや、支援するときに大切なことに気付いてほしい。そして、考えたことを積極的に仲間に伝え、話し合うことを通して、自ら考え、行動に移すことができるようになってほしいと願う。

４　単元構想図　２０時間完了

福祉体験教室　①②

障がいのある人に、どのような助けをすることができるかな。③

・受け入れる人も支える人も大切だな。　・障がいと病気は何が違うのだろう。（病気は病院。障がいは？）

障がいのある人を支える人たちって、どんな人だろう？④⑤

・市役所の人？ヘルパーさん？　・手話をする人　いろいろな人がいるね。でもよくわからないな。

てだてⅠ　実際にどのように支えているのだろう？聞いてみよう！見てみよう！⑥⑦⑧

【豊橋市役所について障がい福祉課の方より】⑥

【グループホーム、デイサービスセンターについて　ほっとぴあの方より】⑦

【社会福祉協議会について社会福祉協議会の方より】⑧

てだてⅡ　障がいのある人を支える人たちから学んだことを振り返ろう。⑨⑩

・障がいの程度によって、支え方も変わってくるんだね。・障がいのある人で働いている人もいるって言っていたな。

・障がいがありながらも働いている人は、どのように支えられているのかな。

・豊橋ではＫ社という会社が、障がいのある人を積極的に雇っているみたい。

・障がいのある人が働いているところを見たことないし、イメージがわかないな。

てだてⅠ　障がいのある人は、実際にどのように働いているのだろう。聞いてみよう！見てみよう！⑪

・一人ひとりの障がいに合わせて作業を分担していたね。　・みんな楽しそうに働いていたな。

てだてⅡ　話を聞いたり、動画を見たりして学んだことを振り返ろう。⑫

・地元企業のめざす「誰も置き去りにしない社会」って素敵だな。

「誰も置き去りにしない社会」ってどんな社会だろう。⑬

・差別をしない社会　・みんなが活躍できる社会　・こんな世の中になっていくといいな。

てだてⅡ　誰も置き去りにしない社会にするために、自分たちは何ができるかな。⑭⑮⑯⑰

・募金　・障がいのある人の話を聞き、手伝う　・ボランティア講座に参加　・学んだことを周りの人に伝える

誰も置き去りにしない社会にするために、自分たちにできることにとりくもう。⑱⑲⑳

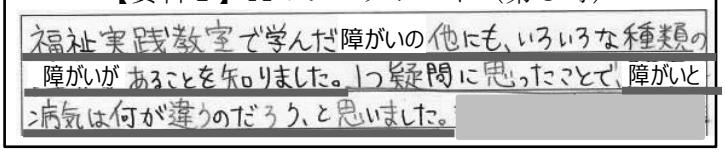
新入生（小学６年生）説明会での発表、ポスターの作成、クラスで募金活動

５　研究の実践と考察

（１）障がいのある人を支える人たちって、どんな人だろう。【第１～５時】

福祉実践教室を通して、世の中にはさまざまな障がいがあることを学んだ。そして、福祉実践教室で学んだ障がいをはじめ、世の中にあるさまざまな障がいに対して、どのような助けをすることができるかを話し合った。話し合いを通して、さまざまな障がいがあることや、障がいによって支援の仕方が異なることに多くの生徒が気付くことができた。Ａの振り返りからはそのことに気づいている様子がうかがえた【資料１】。また、Ａは、「障がいと病気は何が違うのだろう」という疑問ももち始めていた。Ａに話を聞くと、「病気のある人は病院。では障がいのある人はどこに行くのだろう？」と考えたということだった。他の生徒も、「受け入れる人も支える人も大切」といった発言をしており、生徒たちは支える人たちの存在について気付き、興味をもち始めた。

【資料１】Ａのワークシート（第３時）


福祉実践教室で学んだ障がいの他にも、いろいろな種類の障がいがあることを知りました。1つ疑問に思ったことで、障がいと病気は何が違うのだろう、と思いました。

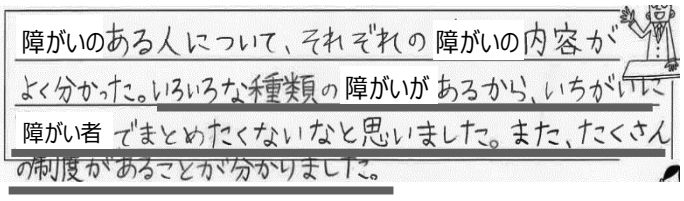
（２）障がいのある人を支える人たちって、どんな人だろう。実際にどのように支えているのだろう【第６～８時】てだてⅠ

次に、タブレットによる調べ学習を通して、障がいのある人を支える人たちについて調べた。多くの職業を調べることができ、障がいのある人を支える仕事が世の中にはたくさんあることに気付くことができた。しかし、普段の生徒たちの生活ではなかなか出会うことがない職業のためイメージがわきにくく、具体的な内容まではわからなかったことから、次時で詳しく調べることとした。福祉にかかわるそれぞれの職業を分類すると、「市役所」「グループホーム・デイサービス」「社会福祉協議会」と大きく３つに分けることができた。さらにその内容について調べ学習をすすめると、専門的な用語が多く、具体的な内容の理解までにはいたらなかった。そこで、これらの疑問を解決するために、ゲストティーチャーに話を聞いたり質問をしたりする場を設定した。それぞれのゲストティーチャーは、仕事内容や仕事に対する思いについて話をしてくださった。Ａは、ゲストティーチャーの話を熱心にメモを取りながら聞いていた。

最初に話をした市役所の方は、さまざまな障がいがあることや、障がいのある人を支える制度について話をしてくださった。Ａは、「いろいろな種類の障がいがあるから、いちがいに「障がい者」でまとめたくないなと思いました。また、たくさんの制度があることがわかりました」といった内容をまとめ、さまざまな障がいの種類があり、それに応じていろいろな制度があることを学んだ【資料２】。

２番目に話をしたほっとぴあの方は、グループホームやデイサービスの仕事内容や、障がいのある人やその家族の相談窓口として働いている話をしてくださった。Ａは、「看護師さんやホームヘルパーの人など、いろいろな人が障がい者の人を助けていることがすごいと思いました」と振り返り、さまざまな人たちが障がいのある人をそれぞれの仕事を通して支えていることに気付くことができた【資料３】。また、「障がい者の方

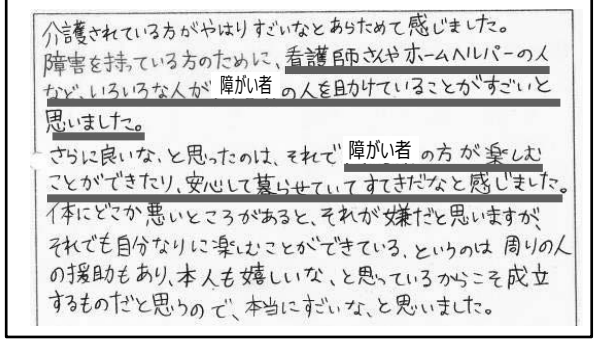
【資料２】Ａのワークシート（第６時）


障がいのある人について、それぞれの障がいの内容がよく分かった。いろいろな種類の障がいがあるから、いちがいに障がい者でまとめたくないなと思いました。また、たくさんの制度があることが分かりました。

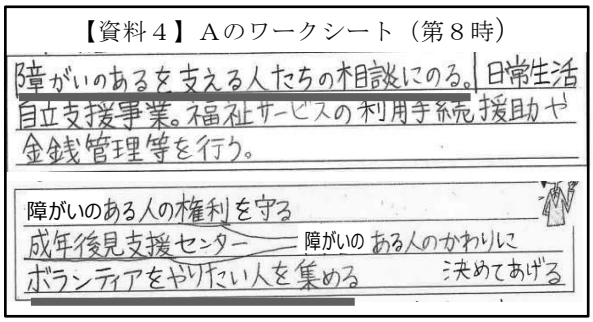
が楽しむことができたり、安心して暮らせていてすてきだなと感じました。」と書いた。障がいのある人も自分たちと同じように楽しめたり喜べたりするような支援のあり方があることがわかり、困っていることを支えるという支援の仕方だけでなく、より楽しめたり喜ばせたりするような支援の仕方もあることに気付いた。

３番目に話をした社会福祉協議会の方の話では、Ａは「障がいのある（人）を支える人たちの相談にのる」「ボランティアをやりたい人を集める」といった学んだことをまとめ、障がいのある人を支える人たちの相談にのったり、ボランティアを養成したりしている人たちの存在に気付くことができた【資料４】。

【資料３】Ａのワークシート（第７時）


介護されている方がやはりすごいなとあらためて感じました。
障害を持っている方のために、看護師さんやホームヘルパーの人など、いろいろな人が障がい者の人を助けていることがすごいと思いました。
さらに良いな、と思ったのは、それで障がい者の方が楽しむことができたり、安心して暮らせていてすてきだなと感じました。
体にどこか悪いところがあると、それが嫌だと思いますが、それでも自分なりに楽しむことができている、というのは周りの人の援助もあり、本人も嬉しいな、と思っているからこそ成立するものだと思うので、本当にすごいな、と思いました。

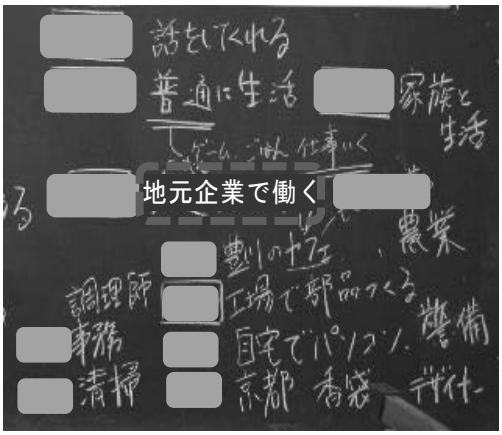
【資料４】Ａのワークシート（第８時）


障がいのある人を支える人たちの相談にのる。日常生活自立支援事業。福祉サービスの利用手続援助や金銭管理等を行う。
障がいのある人の権利を守る
成年後見支援センター ― 障がいのある人のかわりに決めてあげる
ボランティアをやりたい人を集める

（３）障がいのある人を支える人たちから学んだことを振り返ろう。【第９時】てだてⅡ

生徒たちは、それぞれのゲストティーチャーから学んだことを振り返る中で、常に支援を必要とするわけではなく、障がいが比較的軽い人たちはどのように生活しているのだろうか、という疑問をもち始めた。そこで、タブレットで調べてみたところ、「自宅にてパソコンでできる仕事をしている」「工場で働いている」「清掃をしている」といったことがわかり、障がいのある人でも働いている人たちがいることに気付くことができた。さらに調べていく中で、自分たちの暮らす豊橋市に、障がいのある人が多く働いているチョコレート製造販売企業（以下、Ｋ社）があることを知った【資料５】。Ａは、「障がいのある人も働いているなんて意外だし、すごいと思いました。どうやって働いているのか気になりました」と振り返っていた。学級での振り返りや調べ学習を通して、障がいのある人が働いていることはわかったが、どのように働いているのかまではイメージをもてない生徒が多かったため、実際にＫ社の方に話を聞くことにした。

【資料５】障がいが比較的軽い人たちについて生徒たちが調べたことの板書

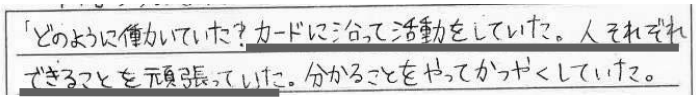


（４）障がいのある人はどのように支えられながら働いているのだろう。【第 11 時】てだてⅠ

Ｋ社の方には、事前に職場の様子を撮影し、動画を通して障がいのある人が実際に働いている様子や、支えるときの工夫について話をしていただいた。障がいのある人がチョコレートに混ぜる食材をカットする際にカットする大きさを間違えないように、切るサイズを明記したカ

ードを準備したり、一人ひとりの特性に応じて任せる仕事内容を変えたりといった工夫がなされている点を伝えてくださった。障がいのある人がいきいきと働いている様子や、支えている人たちの具体的な支援の内容がわかり、多くの生徒が意欲的に動画を見ていた。また、K社の企業理念や、障がいのある人と一緒に働く上で気をつけている点などについて話をしてくださった。Aの振り返りでは、「カードに沿って活動をしていた。人それぞれできることを頑張っていた。」といった振り返りがあり【資料６】、障がいのある人を支える人たちの工夫や、ちょっとした工夫や配慮で障がいのある人も活躍できることがあることに気付くことができた。

【資料６】Aのワークシート（第 11 時）

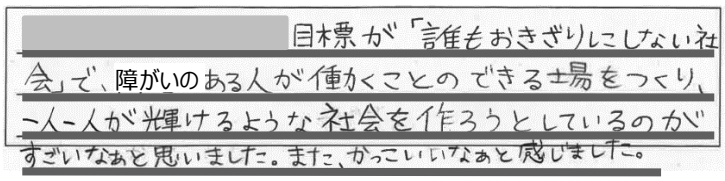

「どのように働いていた？カードに沿って活動をしていた。人それぞれできることを頑張っていた。分かることをやってかっやくしていた。

（５）障がいのある人が実際に働いている様子を見て、学んだことを振り返ろう。

【第 12 時】てだてⅡ

動画を見た後の授業の話し合いでは、K社のめざす「誰も置き去りにしない社会」に共感する声が多く、障がいのある人もない人も一緒に活躍する社会の重要性に多くの生徒が気付くことができた。話し合い後のAの振り返りから、K社の理念に共感し、障がいのある人がいきいきと働く裏に、支えている人たちの工夫や思いがあることに気付くことができた様子がうかがえる【資料７】。そして、Aを含め、生徒たちはそのような社会にしていくために自分たちは何ができるかを考え出した。

【資料７】Aのワークシート（第 12 時）


目標が「誰もおきざりにしない社会」で、障がいのある人が働くことのできる場をつくり、一人一人が輝けるような社会を作ろうとしているのがすごいなぁと思いました。また、かっこいいなぁと感じました。

（６）誰も置き去りにしない社会にするために、自分たちにできることを考えよう。

【第 14 時～17 時】てだてⅡ

最初に個人で、誰も置き去りにしない社会にするために自分たちにできることを考えた際、Aは、「障がいのある人だけでなく、みんなと協力して、みんなと仲良くすることが大切だと思いました。募金活動やボランティア活動に参加して、積極的に行動したいです。」という考えをもった【資料８】。行動に移していきたいという思いをもつことはできたが、曖昧な内容が多く、具体性に欠ける部分があった。そこで、それぞれの考えをもとに、班ごとで自分たちができることを考えた【資料９】。班での話し合いを通して、Aが所属する２班では「すべての人が快適な生活を送ること。障がい者などの話を聞いたり、体験したりして、そこから受け取った意見を少しずつ実現していきたい。」という考えをまとめる

【資料８】Aのタブレット端末への記述（第 14 時）

障がいのある人だけでなく、みんなと協力して、みんなと仲良くすることが大切だと思いました。
募金活動やボランティア活動に参加して、積極的に行動したいです。

【資料９】班で話し合うA（第 15 時）

ことができた【資料 10】。Aは、話し合いを通して、自分たちには障がいのある人に対する知識や理解がまだ足りず、障がいのある人に話を聞いてから行動に移していくことが大切だという、新たな考えをもつことができた。Aに足りていなかった「障がいのある人の実態を知る」という視点を、班での話し合いを通してAがもつことができた様子がうかがえる。しかし、班の意見としてもまだ具体性に欠けるところがあり、行動に移すには難しく思われた。そこで、班ごとに考えた内容をゲストティーチャーの前で発表する場を設け【資料 11】、アドバイスをもらうことにした。当日参加することができなかったゲストティーチャー（社会福祉協議会・K社）には、事前に生徒たちが考えた内容を見てもらい、感想やアドバイスを動画で伝えていただいた。当日参加することができたゲストティーチャー（ほっとぴあの方々と市役所の方）は、直接生徒たちに感想やアドバイスを伝えてくださった。ほっとぴあの方々からは、自分たちの特性をいかし、できることからとりくんでいくことの大切さを伝えていただいた。また、市役所の方からは、時間を意識して、考えた内容を行動に落とし込んでいくことの大切さを伝えていただいた。

【資料 10】２班の考えた内容（第 15 時）

２班

■できること

すべての人が快適な生活をおくること。障がい者の話を聞いたり体験したりそこから受け取った意見を少しずつ実現していきたい。

■理由

差別せず助け合うことができる社会にしたいと思ったから。

【資料 11】ゲストティーチャーの前で発表するA

それぞれのゲストティーチャーのアドバイスを受けて、生徒たちは自分たちの特性をふまえ、時間的な視点をもとに再度内容を検討し始めた。Aのいる２班では、最初は遠い未来の話になりそうだったが、Aの「段階を追ってちょっとずつやっていったらどうだろう」という発言から、「今自分たちができることは伝えることかな」といった発言につながり、未来ではなく今できる身近なこととして総合的に考えるようになった【資料 12】。その後のAの振り返りには、「本当に小さなことでもいいから考えたことを実行していこうと思いました。」という考えが書かれていた【資料 13】。そして、実際に行動に移していった。

【資料 12】授業記録（第 16 時）

Ｃ１：いつまでにやるかだね。
Ｃ２：うちらがおとなになるまで？それなら、障がいのある人を雇う会社を作るとか。
Ｃ３：成人してからだね。
生徒Ａ：段階を追ってちょっとずつやっていったらどうだろう。
Ｃ４：今自分たちができることは、伝えることかな。うちらが体験したことをクラスのみんなに伝えることはできるかも。
生徒Ａ：（おおきくうなずく）
Ｃ５：実際にうちらで障がいのある人のいるところに行って話を聞き、他の人たちに伝えるのはどうだろう。

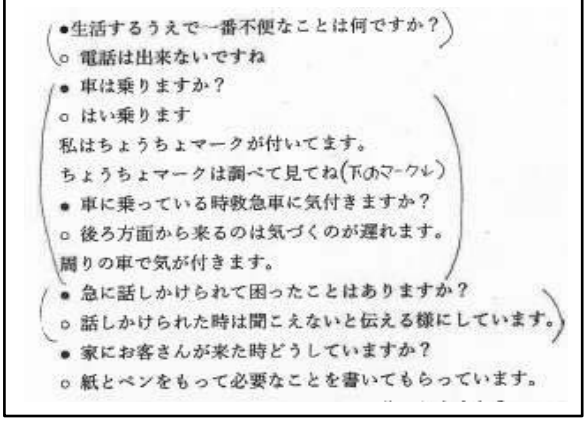
【資料 13】Aのワークシート（第 17 時）

本当に小さなことからでもいいから考えたことを実行していこうと思いました。そうした活動を起こすことで、少

Aは、同じ２班の生徒の知り合いをたどって障がいのある人を自ら探し出し、土日を使って話を聞いてきた。そこでは、障がいのある人が実際にどのようなことに困っているのか、周りの人たちにどのようなことに気をつけてほしいのかといった質問を自ら考え、取材をしていた。

【資料 14】は、Ａがその時に用意した質問や聞いたことをまとめたメモである。その後、聞いてきた内容を２班の仲間と共有し、そこからまとめたことを学級で発表した。さらに、新入生説明会で小学校６年生に対して、ゲストティーチャーから学んだことや、実際に障がいのある人に話を聞いて感じたことなどを、Ａが中心となり発表をすることができた【資料 15】。また、自分たちで募金活動を計画し、仲間と協力して作成したポスターを掲げながら豊橋駅で募金を呼びかけ【資料 16】、集めたお金を社会福祉協議会に寄付することができた。

【資料 14】Ａの取材メモ（一部）


●生活するうえで一番不便なことは何ですか？
○ 電話は出来ないですね
● 車は乗りますか？
○ はい乗ります
私はちょうちょマークが付いてます。
ちょうちょマークは調べて見てね(下のマークね)
● 車に乗っている時救急車に気付きますか？
○ 後ろ方面から来るのは気づくのが遅れます。
周りの車で気が付きます。
● 急に話しかけられて困ったことはありますか？
○ 話しかけられた時は聞こえないと伝える様にしています。
● 家にお客さんが来た時どうしていますか？
○ 紙とペンをもって必要なことを書いてもらっています。

【資料 15】新入生説明会で発表するＡ

【資料 16】募金を呼びかけるＡ

６　研究の成果

（１）てだてⅠ　障がいのある人をさまざまな立場で支えている人たちと出会い、支援のあり方についての話を聞く場の設定について

【資料 17】は、ゲストティーチャーの話に対してＡがまとめた記述内容と、そこに対する考察をまとめたものである。これをもとに、仮説とてだての検証をする。

豊橋市役所の方の話を受けて、Ａは、障がいの種類はさまざまであることや、障がいのある人を間接的に支えるというやり方もあることに気付くことができた。さらに、ほっとぴあの方々や社会福祉協議会の方々の話を通して、支援の仕方はさまざまであることを学ぶことができた。また、障がいのある人の一人ひとりの個性や感情を大切にしながら支えていくことも大切であるということに気付くことができた。同様に、Ｋ社の方の話では、障がいのある人も一緒に働く仲間として認識し、支援していくことの大切さに気付くことができた。以上のことから、障がいのある人を支える人たちと出会い、支援のあり方を聞くことは、間接的な支援や障がいに応じた支援があることを気付き、支援の仕方に関して多角的に考える上で有効であったことがわかる。

【資料 17】てだてⅠにかかわるＡの記述

出会い	Ａの記述	考察
豊橋市役所の方	いろいろな種類の障がいがあるから，いちがいに「障がい者」でまとめたくないなと思いました。また，たくさんの制度があることが分かりました。	障がいのある人の中にも,多様な人たちがいること，その人たちを支える多くの制度があることを学ぶことができた。
ほっとぴあの方々	・看護師さんやホームヘルパーの人など，いろいろな人が障がい者の人を助けていることがすごいと思いました。 ・障がい者の方が楽しむことができたり，安心して暮らせていてすてきだなと感じました。	多様な人たちが障がいのある人を支えていることに気づいたことがわかる。また，障がいのある人を楽しませたり，喜ばせたりするような支援のあり方もあることに気付くことができた。
社会福祉協議会の方々	（社会福祉協議会の仕事は）障がいのある人を支える人たちの相談にのる。ボランティアをやりたい人を集める。	障がい者支援を行う人たちを，更に支えている人たちがいることがわかった。
Ｋ社の方々	カードに沿って活動をしていた。人それぞれできることを頑張っていた。分かることをやって活躍していた。	障がいのある人を支える人たちの工夫や配慮次第で，障がいのある人も活躍できることがわかった。

（２）てだてⅡ　学びを振り返り、学んだことをもとに、自分たちにできる支援について考え、発表する場の設定について

【資料 18】はゲストティーチャーから学んだことを学級内で振り返ったときのＡがまとめた記述内容と、そこに対する考察をまとめたものである。

豊橋市役所、ほっとぴあ、社会福祉協議会の方々の話を聞いた後の振り返りを通して、Ａは、障がいのある人を間接的に支えている人たちへの理解を深めたことに加え、比較的障がいが軽い人たちはどのように生活しているのか、という新たな疑問をもつことができた。また、Ｋ社の方の話を聞いた後の振り返りでは、Ｋ社のめざす「誰も置き去りにしない社会」に多くの生徒が共感し、Ａも、障がいのある人が働き、輝けるような社会にしていくことの大切さに気付くことができた。そして、障がいのある人が働く裏には、支えている人たちの工夫や思いがあることに気付くことができ、障がいのある人が働きやすい環境を整えることも大切な支援の一つであることを理解することができた。以上のことから、障がいのある人を支える人たちから学んだことを振り返る場を設定した今回のてだては、支援の仕方について多角的に考える上で有効であったことがわかる。

【資料 19】は、学んだことをもとに、自分たちにできる支援について考えたときのＡの記述や班での話し合いの内容と、そこに対する考察をまとめたものである。

当初、Ａは、「募金活動やボランティア活動に参加して、積極的に行動したいです」という記述をし、行動に移していきたいという思いを高めていた。また、班での話し合いを通して、「障がいのある人の実態を知る」という新たな視点をもつことができた。しかし、Ａの考えも班全体の考えも具体性に欠ける部分があり、実際に動き出すことはできなかった。そこで、自分たちが考えたことをゲストティーチャーの前で発表し、アドバイスをもらった。そして、その後の話し合いでは、自分たちの特性をふまえ、

【資料 18】学びを振り返ったときのＡの記述

	Ａの記述	考察
第９・１０時	障がいのある人も働いているなんて意外だし，すごいと思いました。どうやって働いているのか気になりました。	障がいのある人の中でも働いている人がいることに気付くことができた。
第１２時	地元の企業の目標が「誰もおきざりにしない社会」で，障がいのある人が働くことのできる場をつくり，一人一人が輝けるような社会を作ろうとしているのがすごいなぁと思いました。また，かっこいいなぁと感じました。	障がいのある人でも働いている人たちがいることと，その裏には支えている人たちの存在があることを理解することができた。 めざす理念に共感し，障がいのある人もない人も一緒に活躍する社会の重要性に気付くことができた。

【資料 19】自分たちにできる支援について考えたときのＡや２班の記述

Ａの記述	考察
障がいのある人だけでなく，みんなと協力してみんなと仲良くすることが大切だと思いました。募金活動やボランティア活動に参加して，積極的に行動したいです。	行動に移していきたいという思いをもつことができたか，いつ・どのように活動にとりくむのかまでは考えられていない。

班での話し合い

Ａの所属する２班の内容	考察
すべての人が快適な生活を送ること。障がい者などの話を聞いたり，体験したりして，そこから受け取った意見を少しずつ実現していきたい。	話し合いを通して，Ａは「障がいのある人の実態を知る」という新たな視点をもつことができた。一方で障がいのある人にどのような話を聞くのか，聞いてどうするのかというところまでは具体的になっていない。

ゲストティーチャーからのアドバイス

直後の２班の話し合いの様子	考察
Ａの発言「段階を追ってちょっとずつやっていったらどうだろう。」 他の生徒の発言１「今自分たちができることは伝えることかな。」 他の生徒の発言２「実際にうちらで障がいのある人のいるところに行って話を聞き，他の人たちに伝えるのはどうだろう。」	Ａは，計画的に段階を追ってやることの大切さに気付き，時間的な視点をもつことができた。班全体では，自分たちの特性を理解し，自分たちにできることを明確にすることができた。

行動の実践

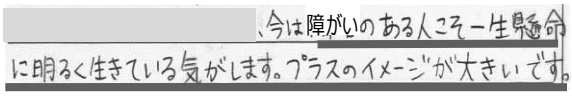
Ａと２班の行動	考察
障がいのある人に実際に話を聞きに行った。耳の不自由な方から聞いた話をもとに，障がいのある人に対して自分たちが気をつけないといけないことを学級全体に伝えた。	Ａは，障がいのある人へ連絡をとったり，質問内容を自分で考えたりと，自らすすんで行動に移すことができた。

具体的な計画に発展した発言があった。自分たちにできるかどうか、時間は足りるかどうかといった、総合的な視点で支援を考えることができた様子がうかがえる。その後、Ａは障がいのある人に自分から連絡をとり、質問をするなど、実際に行動に移すことができた。そして、そこから学んだことを学級の生徒に伝える姿がみられた。さらに、新入生説明会でこれから後輩になる小学校６年生に対して、ゲストティーチャーから学んだことや、実際に障がいのある人に話を聞いて感じたことなどを、Ａが中心となって発表することができた。また、自分たちで募金活動を計画し、豊橋駅で募金を呼びかけ、集めたお金を社会福祉協議会に寄付することができた。以上のことから、学びを振り返り、学んだことをもとに、自分たちにできる支援について考え、発表する場を設定した今回のてだては、障がいのある人への支援について多角的・総合的に考え、自ら動き出す上で有効であったといえる。

７　研究のまとめと今後の課題

単元終盤に、授業全体を振り返って学んだことについてまとめたＡの振り返りからは、障がいのある人に対して前向きなイメージをもつことができるようになった様子が見られた【資料20】。また、単元終盤に、はじめと同じように障がいのある人に対してどのようなイメージをもっているかタブレット端末に打ち込んだところ「できる」「がんばる」「働ける」といった前向きな単語が多かった。本実践を通して、学級全体でも、障がいのある人に対してポジティブな見方ができる生徒が増えた。障がいのある人への支援について多角的・総合的に考えることを通して、単に「助ける」のではなく、「障がいのある方が、自分でできることを尊重しよう」とする様子がうかがえ、障がいのある人への見方が変わったことがわかる。Ａをはじめ、本学級の生徒たちが、今回の授業で学んだことを生かし、これからも誰も置き去りにしない社会にむけて努力していくことを期待したい。

【資料 20】Ａのワークシート



このような成果があった一方で、中学生としてできる支援は限られている部分があった。「将来、自分が起業して障がいのある人を積極的に雇うようにする」とか、「障がいのある人をもっと雇用してくれるように、豊橋市の企業に働きかけていきたい」といった内容を考える生徒もいたが、そのような意見を授業の中で実現したり、内容を深めたりすることは難しかった。障がいのある人への支援の仕方について考える授業は、「福祉」というテーマだけで扱いきることは難しく、「雇用」や「職業」とも大きくかかわる内容であると感じた。よって、障がいのある人を支える人を取り上げることは、１年生で学ぶ「福祉」だけでなく、２年生で学ぶ「職業」とも関連をもたせることが今後の課題であると感じた。今回の実践と反省をもとに、今後も誰も置き去りにしない社会にむけて努力することのできる生徒を育てていきたい。